

初めに、昨年 4 月の熊本地震の際には、県下自治体及び国

震災から 11 カ月経ちますが、今も多くの方々が仮設住宅等での慣れない環境の中で生活しておられます。被災家屋の解体が進む中、慣れ親しんだ町の風景が変わってしまい、家庭訪問に出掛けると道に迷う、なんてこともしばしば。復興を進めるには課題も多く、町が元の状態に戻るまでには時間が掛かりそうです。皆さんが一日も早く元の生活に戻れることを願っています。

それから指定避難所や自主避難所、車中泊など、町内各地で住民さんの避難生活が始まりました。住民さんの健康状態や生活の様子が気になりつつ、目の前にある活動で日々精一杯の時期がありました。そんな中、役場や避難所で多くの住民さんから「保健師さんたちは大丈夫ね。ちゃんと休みよるね」と声を掛けていただいたり、「これ食べてがんばって」とスイカの差し入れを頂いたり、気が付けば支援しなければならない私たちが住民さんに支援され、励まされていました。住民さんと近い地域で活動している町の保健師は、多くの住民さんに支えられているんだなぁと心から思いました。



他県からもたくさんの方の支援をいただいた。
（右）石川県・横浜市職員との調整会議の様子。
（左）静岡県職員と

そのために「地区担当制」は本当に重要だと震災を経験して学んだことの一つです。

震災業務、復興業務は初めての経験ばかりで、難しいことや苦しいことも多いのですが、人として、保健師として学び得るものはたくさんあります。この経験を生かし、感謝の気持ちを忘れることなくこれからも自分の役割をしっかりと果たしていきたいと思います。



町の保健師。後列一番左が筆者

次号執筆者は天草市の古田久美子保健師です。